

東京大学 生産技術研究所 記者会見開催のお知らせ

1. 発表日時：平成 23 年 3 月 4 日（金） 10:30 ～ 12:00
2. 発表場所：東京大学生産技術研究所
総合研究実験棟 As 棟 3F 中セミナー室 2（As301、302）
〒153-8505 目黒区駒場 4-6-1 駒場リサーチキャンパス
<http://www.iis.u-tokyo.ac.jp/access/access.html>（参照）
3. 発表タイトル：
「理想の教育棟におけるゼロ・エネルギー・ビルの取り組み」
4. 発表者：
東京大学生産技術研究所 野城 智也（教授）
東京大学大学院総合文化研究科 永田 敬（教授）
東京大学生産技術研究所 大岡 龍三（教授）

5. 発表概要：

地球規模での気候変動の抑制のため、わが国では、温室効果ガスの排出量を 2050 年までに 60～80%削減する長期目標と 2020 年までに 25%削減する中期目標を掲げている。また、エネルギー安全保障の観点からも、建築物の高度省エネルギーを含む民生分野における化石燃料使用を大幅に抑制することは喫緊の課題である。西欧諸国では住宅・建築のゼロ・エネルギー化を 10 年以内に実現することを政策目標に掲げている国も多い。わが国においても経済産業省が中心となり「ゼロ・エネルギー・ビル（ZEB）の実現と展開に関する研究会」が組織され、ゼロ・エネルギー・ビルの実現性を検討するとともに、その普及に向けたロードマップが提示された。またその実現・普及策の一環として新エネルギー産業総合技術開発機構（NEDO）を通じて 2009 年度にゼロ・エネルギー・ビルの建築に対する助成「次世代省エネルギー等建築システム実証事業」の募集が行われた。

本学ではそのような背景のもと、駒場 I キャンパス（目黒区駒場）に建設予定であった「理想の教育棟」を題材として、ゼロ・エネルギー・ビル・プロジェクトチーム（研究代表 野城智也・生産技術研究所長・教授）を組織し、「理想の教育棟」は上記実証事業の対象建築として選定された。

本建築は現在考えられうる最新の省エネルギー技術を導入している。具体的には、(1) 可動ルーバーを利用したダブルスキン構造、(2) 地中熱・地下水利用ヒートポンプ空調システム、(3) 放射パネル暖冷房、(4) 躯体蓄熱システム、(5) ヒートポンプ排熱を利用したデシカント除湿システム、(6) LED 照明システム、(7) 雨水利用を含む節水システム、(8) 太陽光発電パネル、(9) AI ネットワークによる建物・空調・照明の統合マネジメントシステム、等である。

これらの省エネルギー技術を導入することにより、今後 3 年間で、エネルギー消費 30%削減を目指すとともに、10 年後にゼロ・エネルギー・ビルを実

現するための基礎的知見を蓄積する。それとともに、学生環境とエネルギー問題に関する正しい理解を涵養し、ゼロ・エネルギー・ビル普及のための拠点として社会発信の役割を担うことを目的としている。

6. 注意事項

本件の報道解禁は、平成 23 年 3 月 4 日（金）の記者発表終了後となります。

7. 問い合わせ先：

東京大学生産技術研究所 教授
大岡 龍三（おおおか りょうぞう）

8. 用語解説：

ゼロ・エネルギー・ビル

上記「ゼロ・エネルギー・ビル（ZEB）の実現と展開に関する研究会」では、（ネット）ゼロ・エネルギー・ビルを以下のように定義している。

「建築物における一次エネルギー消費量を、建築物・設備の省エネ性能の向上、エネルギーの面的利用、オンサイトでの再生可能エネルギーの活用等により削減し、年間での一次エネルギー消費量が正味（ネット：プラスマイナスの合計）でゼロ又は概ねゼロとなる建築物」

9. 添付資料：

「ZEB の実現と展開に関する研究会」報告書

<http://www.meti.go.jp/press/20091124002/20091124002.html>

東大(駒場Ⅰ)理想の教育棟 ZEB 概念図

